

令和2年度 中央区立明石幼稚園 外部評価報告書

評価委員：守本利雄、石井吉郎、矢田雄滋、箱守由記、桑原洋一、牛嶋智春、中川理巳
須田桐美（敬称略）

評価時期 令和3年2月

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学校評議員会を資料配付にて実施し、その後、評価委員の皆様からご意見・ご感想をいただいた。

1 重点目標の評価

- ・回収率は今年度も100%となり、幼稚園教育の成果が、保護者の姿勢から感じ取れる。また、個別意見からも、満足度の高い幼稚園であると読み取れる。
- ・今年度は、幼稚園への直接の訪問、地域としての活動が十分にできず残念であったが、近くを通る度に子どもたちの元気に遊ぶ様子が見られ、安堵している。
- ・コロナ禍の中、教職員、保護者、園児が、今までに誰も経験したことのない園生活を、工夫しながら乗り越えてきた結果が評価に現われていると思う。
- ・コロナ禍においても、子どもたちの体験を大切に捉え、園運営を進めていることはありがたい。一方、園の活動に保護者の参加と理解が欠かせない中で、保護者が参加しての活動に制約があり、重点目標3の評価に現われているように、十分に理解が得られなかった面もあったことが読み取れる。引き続き、対応を期待する。
- ・家庭ごとの考え方が多様になり、子ども同士や保護者の関わり方など難しいこともあるかと思うが、安全安心を第一に考え指導してほしい。

2 今後の改善に向けた意見

- ・学校評価の項目に、コロナ禍の一年間ならではの内容を加えることで、てだてが明確になることもあるのではと思われる。
- ・保護者からの個別の意見が多く寄せられている。園児の様子が伝わるように、行事、日常生活の可視化と説明を大切にすることで保護者の不安が解消され理解が得られるのではないかと。
- ・「新しい日常」の中では、一層の努力が必要になるが、柔軟な対応も必要であり、活動、行事の再開を期待する。
- ・従来のやり方にとらわれない、保護者とのコミュニケーションのあり方も検討してほしい。